

まるもりまち ひっぽ
丸森町筆甫地区

「ひっぽで援農～大根収穫お手伝い～」を実施しました

宮城県では、平成25年から平成28年までの4年間、中山間地域等の農作業を支援する「集落支援事業」として、大河原管内の七ヶ宿町干蒲・丸森町筆甫・丸森町耕野の3地区で援農ボランティア活動の支援を行ってきました。これまでの参加者は、4年間で延べ約600人となり、各地域では、この活動を通じて特産品の生産継続や、東日本大震災による風評被害の払拭に取り組んできました。

そして、平成29年度からは「農山村集落体制づくり支援事業」として活動地域を宮城県内全域に拡大し、中山間地域に限らず、農山村集落の活性化に向けて支援を行っています。



平成29年12月10日(日)、丸森町筆甫地区で「ひっぽで援農～大根収穫お手伝い～」が開催されました。

筆甫地区では、東日本大震災の影響で特産品の「へそ大根」の生産を一時中断していましたが、その復活を目標に、昨年から本格的にへそ大根の生産を開始しました。そして、その大根の収穫を手伝ってもらうため、「筆甫中区集落協定」が主体となり、援農ボランティアの受入れを実施し、今回は30人の方にご参加いただきました。

まずは、集落協定の庄司さんが大根の収穫方法を伝授。



一斉に大根の収穫をスタート。あっという間に畑3枚分の大根を収穫！





収穫した大根は、軽トラックで運んで洗い作業へ。地域のお母さん方の手際と連携プレーでピカピカ！

参加者、地域の方、スタッフ、全員一緒に！

昼食は、お母さん方手作りのごはんをいただきました。へそ大根の煮物、大根葉ごはん、豚汁、ポテトサラダ、漬け物・・・と盛りだくさんで、参加した皆さんは大満足の様でした。



昼食の後は、全員で記念撮影！



地域の方からは、「へそ大根づくりで一番重労働の大根収穫を手伝ってもらえて、とても助かっている」、「参加者との交流が楽しい」という声をいただきました。また、参加者からは、「無心になれて楽しい」、「普段はできない作業ができて良い経験になった」等、援農や交流を楽しむ声が多く聞こえました。

最後には、お土産にへそ大根を買っていく参加者の方も多く、へそ大根の知名度アップの機会にもなりました。

「ひっぽ」のへそ大根→



この活動を機に、丸森町筆甫地区の自然や、農産物に関心を持っていただき、また足を運んでいただければ幸いです。

この活動は、宮城県の「農山村集落体制づくり支援事業」の一環として行っており、宮城県ではこれからも農村集落や中山間地域の持続的発展を支援して参ります。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。

宮城県大河原地方振興事務所農業農村整備部